

水辺がつなぐ城下町の記憶 失われた堀と水辺空間を活かした再生計画

Memories of a castle town connected by the waterside

A revitalization plan that takes advantage of the lost moat and waterfront space

佐藤信治¹, ○鈴木美咲²,
Shinji Sato¹, *Misaki Suzuki²

Japanese cities were built on waterfronts and lowlands, and before the spread of railways, shipping was the mainstay of transportation. Rivers and waterways once functioned as the backbone of cities, but due to modern urbanization, road construction, flood control, sanitation improvements, and housing development, they have gradually been reclaimed, and many of them have now disappeared, cut off from people's lives. Tsuchiura City originated as a castle town built on the shores of Lake Kasumi Gaura, and was connected to Edo by water transport, flourishing as a hub for supplies and information. However, the city center is currently being hollowed out as the moat and townscape have been lost. In this project, the castle park will be used as the site, and the lost waterfront will be regenerated as a living space, creating a public base that supports citizen interaction and cultural excitement.

1. はじめに

日本の都市の多くは水辺や低地に立地し鉄道が普及する以前は舟運が物流の主役を担っていた。そのため各都市には網の目のように川や水路が整備され、人や物資が行き交う重要なインフラとなっていた。しかし近代以降には都市化の進展や道路整備の必要性に伴い、全国で水路の埋立てが進められた。衛生改善や河川犯濫対策、宅地開発といった理由も重なりかつて都市の骨格を形成していた水辺の多くは姿を消され住民の日常生活から切り離されている。

2. 計画背景

土浦市は霞ヶ浦湖岸に築かれた城下町を起源として発展してきた。江戸時代初期利根川改修により江戸と水運で結ばれ、藩政と水陸路の発展により船問屋が営まれ米・炭・木材・醤油等が江戸へ輸送が行われた。

船や物の輸送を差配することで城下には様々な物資や情報が行き交う場となり交通の要衝としての役割を担っていた。

しかし現在、城を取り囲んでいた堀や水路場所埋め立てられ道路となっている。古い町並みもほとんど姿を消し城郭や町屋も失われかつての城下町の記憶は断片的に残る。

また県南の中心都市として賑わいを見せたがつくば市の発展に伴い、土浦市の商業や文化の機能が低下し、中心市街地の空洞化や土浦市らしさが希薄化となってしまった。



Figure 1. Times New Roman Times New Roman Times New Roman

3. 基本計画

3. 1 失われた堀

本計画では、失われた堀や水辺を単なる歴史的遺構として扱うのではなく市民の生活空間へと再構築し交流や活動を支える新しい公共空間として位置付けることを目指す。

3. 2 地域固有の魅力

現代的機能を組み合わせ、多様な人々が集まり地域文化を発展できる拠点の形成を図り、かつての江戸と霞ヶ浦を繋いで繁栄した土浦の歴史を現代的に継承し地域固有の魅力を取り戻すことを目的とする。

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2: 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University

4. 建築計画

4. 1 計画敷地

茨城県土浦市中央一丁目に位置する亀城公園の一部を計画敷地とする。旧土浦城跡を基盤として整備された都市公園であり、園内には堀や櫓門といった歴史的要素が残存している。土浦の象徴でもある亀城公園は、市民の憩いの場であり土浦の歴史を伝える観光拠点である。



Figure 3. Times New Roman Times New Roman Times New Roman

4. 2 城跡

明治時代以降の土浦城内の建物は破却され、多くの堀や土塁も改変されている。城跡は1932年に亀城公園として整備され屏風折と呼ばれた曲がりくねった城郭の形状も直線的な土塁や堀に改編され、城跡としては重視されていない現状。

4. 3 自転車

土浦市は「つくば霞ヶ浦りんりんロード」を中心に自転車利用の推進を進めている。観光資源としての展開は見られるものの、市民生活に十分に根付いていない現状である。自転車は単なる移動手段にとどまらず健康増進や環境負荷の低減等多面的な価値がある。今後のまちづくりにおいて、自転車を観光目的の交通と日常生活の移動手段との位置付けが必要である。

5. 導入施設

亀城公園の敷地一部に複合型施設及び親水空間の計画に伴い、1) 自転車の動線 2) 商業施設 3) 親水空間を行う。

5.1 商業施設

土浦市特産の蓮根や霞ヶ浦の水産物といった食文化を都市空間に取り込み、観光と生活を結び付けることで地域の誇りと都市の魅力を強化につながる。

5. 2 自転車の動線

土浦市では自転車利用を推進しているが、市民生活には十分浸透していない。

地域活動や観光客との交流の媒介としても有効であり、まちづくりに不可欠な存在となる。

5. 3 親水空間

かつて土浦の都市景観を特徴とする舟回遊は、水城の記憶を伝える文化的要素でありその再生は土浦市の歴史を再確認する機会になる。

5. 参考文献

- [1] 土浦市, 「土浦市のあらまし」
https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1219342099_doc_18.pdf